

## 学 位 論 文 要 旨

### 研究題目

Safety and Effectiveness of Drip, Ship, and Retrieve Paradigm for Acute Ischemic Stroke: a Single Center Experience

(急性期脳梗塞に対する Drip, Ship and Retrieve 療法の有効性と安全性の検討)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻 高次神経制御系

脳神経外科学 ( 指導教授 吉村 紳一 )

氏 名 桧山 永得

急性期脳梗塞に対する血栓回収療法をより多くの患者に適応するために行われている Drip, Ship and Retrieve システムの有効性と安全性について解析を行った。

対象と方法：2013 年 9 月から 2015 年 8 月までの 24 ヶ月間に兵庫医科大学病院急性医療総合センターで血栓回収療法が施行された脳梗塞患者 109 例のうち、t-PA 静注療法後に血栓回収療法が施行された 45 例を他施設から転送された 33 例と直接搬入された 12 例に分けた。

結果：患者背景について両群に有意差のある項目は認めなかった。治療時間経過について両群を比較した場合、再開通までの時間に有意差はなかった。閉塞血管の再開通率や患者転帰、有害事象の発生について比較した場合、両群に有意差を認めなかった。

考察：今回研究対象とした急性期脳梗塞患者の治療においては転送されても直接搬送されても治療の経過時間に差はなかった。よって、今後 Drip, Ship and Retrieve システムをさら多くの施設で行えるようにすれば直接搬送例と遜色ない時間で血栓回収療法をより多くの患者に行うことができることが示唆された。また、再開通率や有害事象の頻度にも両群間に有意差はなく、転送は血栓回収療法の結果に影響を与えていなかった。患者転帰においても両群間に有意差を認めず、安全性においても遜色ない結果であった。しかし本研究は後ろ向き解析であり、症例数が少なかった。また単一施設への転送例の解析であり、今後は多施設で前向きに同様の検討を行う必要がある。